

	<h2 style="color: blue;">2つの星の思い出</h2> <p style="color: blue; font-size: 1.2em;">SCE・Net 弓削 耕</p>	<p style="font-size: 1.2em;">E-48</p> <p>発行日 2013年5月11日</p>
---	---	---

(1) 人の命には限りがある。寿命が長いのか短いのか、終焉の時期は神のみぞ知る。

小生の属するグループの多くは、同年代の人の集まりであるため、どのグループも仲間がだんだんと減っていく傾向にあるが、これは宿命であり、やむを得ない。わが **SCE・Net** でも、この例に洩れず、何人かの仲間を知らずも遠い世界に送り出してしまっている。その中で、小生には2人のことが強く印象に残っている。

(2) **曾根邦彦さん**と知り合いになったのは、もう10年以上も前、**SCE・Net** が歩き出した頃、小生が幹事会に参加し始めたときであったと思う。曾根さんは比較的若い頃から **SCE・Net** に参加され、活動されていた。顔にふさふさとした髭を蓄えておられてように記憶します。常に厳かな発言をされ、皆の注目を集めていたようでした。特に頻繁に桜研究会（飲み会の通称）で歓談することはなかったように記憶するが、**エネルギー研究会**を中心とした研究会活動には積極的に参加されていました。若さからの馬力もあり、時間の有効活用にも長け、本会を愛する気持ちから会では精力的に動き、いろいろな活動・行事には積極的に手を挙げて賛同され、実力を発揮されていました。出身のエンジニアリング会社（日揮）で鍛えられていたのでしょうか、多少専門外と思われることでも、幅広く勉強、努力され、会のために成果を上げていました。

小生が特に接触が深かった**エネルギー研究会**では、風力発電、エネルギー貯蔵、マイクロタービンなど幅広く話題を提供され、しっかりと学ばせてもらいました。その研究会で共同執筆した「**図解新エネルギーのすべて**」では得意のタービン、エンジン分野を始め天然ガス、オイルサンド、自動車のエネルギーについて執筆され、他人が不得手とする分野の執筆を嫌な顔ひとつせず引き受けられ、誌面の充実と早期の出版に尽力されました。教育研究会が進めていた社会人講座 **LWWC** では、多くの方が尻込みする中、予想以上に多くの課目を担当され、その上、内容も多種多様な話題を取り込んで聴講者に興味を持たせるように工夫されていたのは流石であると感心しました。

さらに、「**初めて学ぶ熱・エネルギー**」の執筆にも参加してもらいましたが、その時は東海地区の企業での応援勤務で忙しかったにも拘らず、ほぼ納期通りに原稿を仕上げられ、立派な書が刊行できたのを有難く思いました。その後、関西方面での仕事の応援を受けられ、引き続き単身赴任で頑張っていました。持ち前の粘り強さも強靱な努力も叶わず、道半ばで倒れられたのは誠に残念でした。これからも会のために多大の貢献がされた

であろうと思うと返す返すも無念なことであった。曾根さんが応援業務で頑張って SCE・Net に納入された事務経費は個人としては当時最高の貢献額であったので、時の代表、幹事から大いに感謝されました。共著「初めて学ぶ熱・エネルギー」はその後、書名が「熱・エネルギーを科学する」と変わったが、現在でも出版が続けられ、曾根さんの遺産の一つとして細々ながら印税が遺族に届けられている。虎は死して皮を残すとも言えるのであろうか。書棚の書を見るたびに曾根氏のことを懐かしく思い出している。SCE・Net としては記録に残るメンバーであったと思われる。



若かりし頃の 金城徳幸さんと 曾根邦彦さん

(3) もう一方、強く印象に残るのは金城徳幸さんである。初めてお目にかかったのは、金城さんが御茶ノ水女子大学で教えられていた頃、社会人講座の LWWC の関係で知り合い、発足したばかりの教育研究会に参加されてからのお付き合いとなった。当時の教育研究会は社会人講座の運営に多くの時間をとられ、本来の教育問題の話し合いはなかなかできなかったが、その中で金城さんには、まず自身の専門であるプラスチックの開発の歴史を取り上げて、会としては息抜きとなるような話題を提供してもらい一息ついた思いをしたことを覚えている。大学での研究からは化学産業における技術革新のあり方、問題点、死の谷、技術伝承の進め方の話をとおして企業経験者でもある学の研究者としての技術開発についての考えを紹介してもらった。

その後、東京工業大学の方に移られ、工学倫理の講義をされるようになってからは、金城さんが考えていること、学生に教えている倫理・道德問題が、教育研究会が課題として取り上げたことに合致し、研究会では大いに活躍された。学生には実例で倫理感を考えさせ、技術者は捏造、改竄、盗用などの不正行為は絶対にしてはならないことを強調していました。金城さんは企業（日立化成）に在籍していたころ、会社から派遣されアメリカで工学倫理のことも勉強され、さらに科学史に興味を持たれ、アメリカ、ヨーロッパを回って科学の歴史を学んで来られたので、専門の化学を中心に科学の歴史を背景にしなが、倫理がどのように考えられてきたかをまとめたの話はいつも興味深々であった。ギリシャ神話から始まって、科学の進歩、人類への貢献と倫理観を如何両立していくか、両者が如何

葛藤してきたかについて、歴史的な動きを見つめながらの説明でかなり蘊蓄のあるものであり、歴史を学びながら倫理観を教えられるので、いつも楽しく考えながら聞ける話であった。科学史については学生時代からの趣味であったとのことで、古今東西の科学者の写真に興味があり、欧米で多くの科学者の肖像写真を集めたり、写真の写真を撮ったりして蒐集し、それだけで報文を書かれており、小生などの知らなかった科学者たちの歴史を知ることができた。科学者の写真をみることで子供たちの科学心を目覚めさせるのではないかとの提案もされていた。

研究会では倫理問題を考える種として取り上げた新渡戸稲造の「武士道」やハーバート大学のサンデル教授の熱血教室「これからの正義の話をしよう」では、読書好きの金城さんの心に灯をつけたようで、熱情が迸<sup>ほとばし</sup>ってきて、分厚い図書の読後感や、TV番組を見ての感想や意見交換で、熱い時間を持ったのが忘れられない。また東工大では講義と並行して、学生や社会人を対象に「科学史サロン」なる講座を持ち、金城さんが関心を持つ科学史を中心に月に1回に2、30人を集めてユニークな会合を開いていました。そのサロンには教育研究会のメンバーも何人かが講師として呼ばれ話をさせられ、おまけに小生までもが熱心な依頼には断ることもできず科学史とはあまり関係ない話をしました。残念ながら、この会で小生が話したときが最後のお別れの場となってしまう、今となっては金城さんの人懐こい顔とともに小生が拙話をしたことも懐かしい思い出となってしまいました。

金城さんは東工大に移った頃から特に体調が思わしくなくなり、教育研究会を休まれることも多くなりました。たまたま手術後に不自由な体を押しつけて研究会に出席されたときに誘った飲み屋の階段で足を滑らせ、急遽、救急車で入院されたという苦い思い出があります。その後は、身体を慮<sup>おもひほかり</sup>り、怪我もしないようにと奥様が常に付き添われることとなり、夫婦同伴で大学に出勤され、SCE・Netの研究会、技術懇談会にも出席していただきました。御主人思いの奥様が甲斐甲斐しくお世話をされる姿には本当に頭の下がる思いでした。金城夫妻には、教育研究会としても甘えていた部分もあり、人の好いご夫婦の好意にすがって、研究会や学会活動（年会での報告は震災のため実現はしなかった）までに引っ張り回したので、これが大きな負担になってしまったのではないかと深く反省しています。金城さんの報告は、単なる技術・研究報告ではなく、興味深いスライドの数々で神話、歴史の世界にまで知らず知らずのうちに引きずり込んでいく教養講座でもありました。SCE・Netでは記憶に深く残る会員ではなかったかと思います。

いずれにせよ、お2人とも今の平均寿命から考えると、人生の幕引きが早すぎたのが真に残念です。もう少し一緒に仕事をし、SCE・Netのためにも活躍することを期待していたのに、それも叶わなくなってしまいました。故人のご冥福を心からお祈り致します。

(4) 小生としては、SCE・Netに参加したことにより、それまで全く面識のなかった多くの人と知り合いになり、短い時間にかなり深く付き合うことができ、いろいろと教えられ、考えさせられ、人生を楽しめるのを非常に有難く思っています。その中で、ここで

紹介した2人の方とは、10年弱の交誼でしたが、互いに切磋琢磨し、小生自身も少しは考える機会を持つことができたのは有益でした。その上、2人はSCE・Netに対しては、情熱的な活動を通じて多大の貢献をしていただき、その活躍ぶりや成果が多くメンバーの心に残っていることを考えれば、会にとって素晴らしい人たちであったと思います。

このように記録や記憶に残る、有能な人材がまだSCE・Netには沢山おられます。これらの会員が、お互いに知恵を出し合い、教え教えられ、相互研鑽をし、各自の人生を豊かにするとともに、その総合力を社会に向かって発揮できれば素晴らしいことでしょう。用意されたパーティの場に、他の人が持ち込む酒食を楽しみに待つだけでなく、参加する各会員が不十分ながらも自前の料理、酒を進んで持ち寄りパーティを盛り上げながら楽しみ、互いに料理の腕を上げ、そこから世に紹介できるような美味しいレシピが見いだせれば幸いかなと思います。

ご多聞に洩れず、SCE・Netでも平均年齢の上昇、高齢化が心配されており、今後は更なる高齢化から会員、優秀な人材の自然減も起こるのではないかと懸念されています。残された時間は日一日と短くなっています、「命短し、頑張れーシニア<sup>いのちみじか</sup>」です。元気に命永らえている間に気力、知力、体力を精一杯出して、楽しみながら、賢明なる日本社会に貢献していきたいものです。

以上